

取組名	家庭教育カウンセラー巡回相談事業（いじめ防止対策等推進事業）		
取組実績	○家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者等に対して適切なアドバイスを行えるよう、臨床心理士を「家庭教育カウンセラー」として配置		
	▶延べ相談件数（巡回と来所を含んだ数値）		
		28年度	29年度
	専門相談	373件	422件
担当課	社会教育課		

### 取組の成果と課題

#### 【成 果】

- 家庭教育学習資料では子どもの発達段階に応じた子育てQAやネットトラブルといった現代的な課題への対応、相談窓口等を掲載しており、学校を通じて保護者に配布することにより、自らの子育てを振り返り、悩みを解決するきっかけとなっている。
- 各教育局で開催した子育てや親育ちに関するフォーラムにおいては、地域の様々な団体や組織との連携が広がった。
- 困難を抱える家庭への訪問支援に、家庭教育支援員とまなび・生活アドバイザーが連携して取り組み、教育面と福祉面の双方から家庭を支援する体制を整えた。また、地域の人材や関係機関により構成されるネットワーク会議の定期的な開催により、地域ぐるみで家庭を見守るネットワークの形成が進んだ。

#### 【課 題】

- 家庭教育支援に関する事業や相談窓口等について、引き続き、情報発信方法の工夫と充実が必要である。
- 研修や情報交流の機会を充実して家庭教育支援関係者の資質向上を図り、また、効果的な支援方法等を府内に発信していく必要がある。
- 身近な地域における家庭教育支援をより広く実施するため、「家庭教育支援チーム」による支援を広げていく必要がある。

### 京都府教育行政点検評価会議での意見

- 京都府が取り組んでいるアウトリーチ型の家庭教育支援は高く評価でき、引き続き推進していくべきである。
- 家庭教育の支援は、教育の分野だけでは難しい側面もあり、福祉部局などの関係機関としっかり連携を図っていく必要がある。
- 子育てサロンは保護者の孤立化を防ぎ、保護者同士の交流、相談活動等を通して有意義な子育て支援となっている。地域全体から守られているという感覚を持たせる上でも重要な取組である。
- 子どものSNSの適切な使用等については、保護者への働きかけを一層深めていく必要がある。

## 重点目標9 地域社会の力を活かして子どもをはぐくむ環境をつくる

地域社会は子どもが生活し成長する場として重要な役割を担っています。  
 また、周囲からの愛情や信頼、期待などに包み込まれているという感覚をはぐくみ、安心や自信、誇りや責任感を持つことができる大切な場でもあります。  
 そのため、地域のつながりや人材、自然、伝統や文化など京都が持つ様々な力を活用しながら、学校支援活動をはじめ、子どもの自然体験活動やスポーツ活動等を充実させることにより、地域全体で子どもを包み込みはぐくんでいく環境づくりを推進します。

### ■主要な施策の方向性

- (35) 子どもの活動の場の充実
- (36) 学校を支援する活動の充実
- (37) 子どもの健全育成のための環境づくり

### ■主な目標指標

目標指標	基準値	目標	28年度実績	29年度実績
地域の特色を活かした子どもの活動の場の数	69箇所 (H26年度)	100箇所	79箇所	83箇所
地域住民及び企業やNPO等と連携して学校支援活動が行われている学校の割合	小:86.7% 中:81.9% (H26年度)	100%	小:91.4% 中:81.9%	小:91.4% 中:75.0%
知っている人に会った時にあいさつをする子どもの割合 (「知っている人に会ったときは、あいさつをしている」という質問に対し「当てはまる」と回答した児童生徒の割合)	小4:61.6% 中1:62.4% 中2:58.5% (H27年度)	増加させる	小4:62.1% 中1:62.1% 中2:59.6%	小4:62.8% 中1:61.8% 中2:59.4%
地域の行事に参加している子どもの割合 (「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対し「当てはまる」と回答した児童生徒の割合)	小6:39.1% 中3:18.0% (H27年度)	増加させる	小6:41.5% 中3:17.3%	小6:36.0% 中3:15.0%

■主な取組実績

取組名	京のまなび教室推進事業（子どものための地域連携事業）																								
取組実績	<p>○放課後等における子どもの体験活動・学習活動・異世代交流等の一層の充実を図るため、学校や社会教育施設等を子どもたちの安心・安全な居場所として活用する「京のまなび教室」の開設を支援</p> <p>▶実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市町(組合)教委</td> <td>18教委</td> <td>18教委</td> </tr> <tr> <td>教室</td> <td>79教室</td> <td>83教室</td> </tr> </tbody> </table> <p>○市町(組合)教育委員会が実施する「京のまなび教室」等に、企業や伝統産業の職人等の「特別講師」の派遣をコーディネート</p> <p>▶派遣状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣先</td> <td>14教委 29教室等</td> <td>12教委 36教室等</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>40回</td> <td>47回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○事業関係者の資質の向上や情報交換等を図るため、指導者等研修を実施</p> <p>▶実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>10回</td> <td>11回</td> </tr> </tbody> </table>		28年度	29年度	市町(組合)教委	18教委	18教委	教室	79教室	83教室		28年度	29年度	派遣先	14教委 29教室等	12教委 36教室等	回数	40回	47回		28年度	29年度	回数	10回	11回
	28年度	29年度																							
市町(組合)教委	18教委	18教委																							
教室	79教室	83教室																							
	28年度	29年度																							
派遣先	14教委 29教室等	12教委 36教室等																							
回数	40回	47回																							
	28年度	29年度																							
回数	10回	11回																							
担当課	社会教育課																								

取組名	地域で支える学校教育推進事業（子どものための地域連携事業）												
取組実績	<p>○地域ぐるみで学校を支える体制整備として、「学校支援地域本部」を設置して、学習支援・部活動の支援・読書活動支援・学校行事の支援など、学校のニーズに応じた教育支援活動を実施</p> <p>▶設置状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市町(組合)教委</td> <td>14市町</td> <td>14市町</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>35本部</td> <td>37本部</td> </tr> <tr> <td>対象校</td> <td>119校(園)</td> <td>122校(園)</td> </tr> </tbody> </table>		28年度	29年度	市町(組合)教委	14市町	14市町	本部	35本部	37本部	対象校	119校(園)	122校(園)
	28年度	29年度											
市町(組合)教委	14市町	14市町											
本部	35本部	37本部											
対象校	119校(園)	122校(園)											
担当課	社会教育課												

取組名	いじめ・非行防止キャンペーン				
取組実績	<p>○府内各公立中学校PTA（京都市立及び府立除く）が関係団体と連携し、「いじめ・非行防止キャンペーン」と表記した横断幕やのぼり等を活用した地域ぐるみの声かけ（あいさつ）・見守り運動を実施</p> <p>▶実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93校</td> <td>92校</td> </tr> </tbody> </table> <p>○各教育局において、地域の関係団体と連携し非行防止を進める機運の醸成を図るため、非行防止フォーラムを開催</p>	28年度	29年度	93校	92校
28年度	29年度				
93校	92校				
担当課	社会教育課				

取組名	土曜日を活用した教育																								
取組実績	<p>○土曜日における学校、家庭、地域社会が連携した多様で魅力的な教育活動の実現にむけ、実践研究校を指定</p> <p>▶指定状況</p> <table border="1" data-bbox="438 353 885 492"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市(組合)数</td> <td>16市町</td> <td>16市町</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>9校</td> <td>9校</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>10校</td> <td>10校</td> </tr> </tbody> </table> <p>○土曜日の教育支援体制等構築事業 土曜日等の教育支援に取り組む体制の構築を図るため、多用な経験や技能を持つ地域の人材や企業等の協力により、体系的・継続的な教育プログラムを実施</p> <p>▶実施状況</p> <table border="1" data-bbox="438 649 885 788"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市(組合)数</td> <td>5教委</td> <td>5教委</td> </tr> <tr> <td>箇所数</td> <td>7箇所</td> <td>8箇所</td> </tr> <tr> <td>対象校</td> <td>37校(園)</td> <td>38校(園)</td> </tr> </tbody> </table>		28年度	29年度	市(組合)数	16市町	16市町	小学校	9校	9校	中学校	10校	10校		28年度	29年度	市(組合)数	5教委	5教委	箇所数	7箇所	8箇所	対象校	37校(園)	38校(園)
	28年度	29年度																							
市(組合)数	16市町	16市町																							
小学校	9校	9校																							
中学校	10校	10校																							
	28年度	29年度																							
市(組合)数	5教委	5教委																							
箇所数	7箇所	8箇所																							
対象校	37校(園)	38校(園)																							
担当課	学校教育課・社会教育課																								

### 取組の成果と課題

#### 【成果】

- 京のまなび教室推進事業では、放課後等に地域のコーディネーターやボランティアの方々によって茶道教室や凧づくりなど様々な体験活動や学習活動が実施された。また、特別講師派遣事業は本物が体験できる機会と捉えられ、活用する教室数等が増加している。
- 活動に参加する地域住民が増加しており、住民と子どもとの交流が進んで校外での挨拶や会話が增えたり、住民同士のつながりが生まれ、地域の教育力の向上や活性化につながっている。
- 声かけ（あいさつ）・見守り運動は、中学校PTAの活動にとどまらず、小学校PTAや警察、地域の住民・団体等と連携し、地域全体で子どもを見守る活動として広がりを見せている。

#### 【課題】

- コーディネーターの資質向上やボランティア等の確保に引き続き取り組む必要がある。
- より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有する「緩やかなネットワーク」の形成を進め、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える取組の充実を更に進める必要がある。
- 地域学校協働活動の理念の普及啓発を進め、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動を推進していく必要がある。

### 京都府教育行政点検評価会議での意見

- 青少年教育の主たる事業である「京のまなび教室推進事業」は年々充実しつつある。子どもの居場所づくり、体験活動、地域の人との触れ合いなど、本事業による効果は極めて高い。
- 地域ぐるみで学校を支える地域学校協働本部による教育効果は極めて高い。子どもたちは「地域の人に見守られている」という思いからか、学校全体に落ち着きが見られる。
- 地域社会の中で子どもの居場所作りを進めることは、京都府がこれまで力を入れて取り組んできたことであり、今後この取組を推進していく上でもスクールソーシャルワーカーの増員は急務である。

## 重点目標10 生涯学習社会の実現に向けて学習環境を充実させる

変化する社会に柔軟かつ的確に対応し、豊かで生きがいのある人生を力強く歩み続けるためには、いつでもどこでも多様な方法で学習でき、生涯にわたって自ら学び自らを高めることができる生涯学習社会を実現することが大切です。

そのため、京都府内の各地域の特性を活かした多様な学習機会の提供、現代的課題の解決につながる学習活動の支援、生涯にわたって文化活動やスポーツ活動に親しむことのできる環境の充実を、社会教育関係団体などと連携・協力しながら推進します。

### ■主要な施策の方向性

- (38) 生涯学習環境の充実
- (39) 生涯スポーツ環境の充実
- (40) 生涯学習施設などを活用した学習活動の充実

### ■主な目標指標

目標指標	基準値	目標	28年度実績	29年度実績
文化財講座等の参加者数（年間）	7,918人 (H23～26年度 平均)	8,000人	10,085人	13,555人
週1回以上運動やスポーツを行う成人の割合	53.6% (H24年度)	増加させる	-	48.7%
府立図書館の本の貸出冊数	247,284冊 (H26年度)	270,000冊	245,895冊	245,860冊

■主な取組実績

取組名	京都府社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会						
取組実績	<p>○生涯学習社会の実現に向けて府内の社会教育をより一層推進するため、社会教育・生涯学習関係職員の資質の向上と専門的力量を高めることを目的とした研修会を開催</p> <p>▶実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>106名</td> <td>115名</td> </tr> </tbody> </table>		28年度	29年度	参加者数	106名	115名
	28年度	29年度					
参加者数	106名	115名					
担当課	社会教育課						

取組名	京都府版マスターズ大会開催事業									
取組実績	<p>○高齢化社会を踏まえた健康対策、生涯スポーツ推進の観点からより多くの成年・中高年の健康増進に寄与するとともに、関西版マスターズ大会やワールドマスターズゲームズ2021関西に向けた機運の醸成を図るため、京都府版マスターズ大会を開催</p> <p>▶実施状況</p> <p>京都府民総合体育大会にマスターズ部門を設置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種目数</td> <td>22種目</td> <td>23種目</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>12,368名</td> <td>12,471名</td> </tr> </tbody> </table>		28年度	29年度	種目数	22種目	23種目	参加者数	12,368名	12,471名
	28年度	29年度								
種目数	22種目	23種目								
参加者数	12,368名	12,471名								
担当課	保健体育課									

取組名	府立図書館における府民の知的活動の支援												
取組実績	<p>○約128万冊の蔵書やデータベースを揃え、府民の調査研究に役立つ資料や情報を提供</p> <p>○府内全域に均質な図書館サービスを提供するため、府内の公立図書館等の蔵書を一括で検索できる「京都府図書館総合目録」を構築するとともに、全市町村を毎週巡回して図書を搬送する「連絡協力車」を運行</p> <p>▶府内図書館等への貸出実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>府内市町村立図書館等 (相互貸借)</td> <td>19,178冊</td> <td>21,700冊</td> </tr> <tr> <td>府内学校図書館等 (支援セット・機関貸出)</td> <td>21,534冊</td> <td>22,993冊</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数計</td> <td>40,712冊</td> <td>44,693冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>○府民の課題解決の拠点となるため、府の府民参画部門や公的機関、大学、NPO等との連携・協働を推進</p> <p>▶取組状況：29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府民力推進課や市町村立図書館等との協働により、地域活動に取り組むNPOや個人を図書館の資料で支援するイベント「シラベル」を開催</li> <li>・NPOパートナーシップセンターとの連携で地域力再生活動を支援する事業が府の「地域力再生プラットフォーム事業」として再認定</li> <li>・日本政策金融公庫との共催で、NPOの活動を支援するクラウドファンディングセミナーや起業者向け個別相談会を実施</li> <li>・府内の大学の図書館と連携した相互貸借サービスを拡大（2→6大学）→大学が所蔵する専門的な図書を府民が地元の図書館で閲覧可能に</li> <li>・大学教授等、府内の研究者による府民向け連続講座を開催</li> <li>・NPO等と協働し、図書館の資料を活用した各種のイベントを開催</li> <li>・国会図書館の資料等、データベースの使い方を紹介する活用講座を開催</li> </ul>		28年度	29年度	府内市町村立図書館等 (相互貸借)	19,178冊	21,700冊	府内学校図書館等 (支援セット・機関貸出)	21,534冊	22,993冊	貸出冊数計	40,712冊	44,693冊
	28年度	29年度											
府内市町村立図書館等 (相互貸借)	19,178冊	21,700冊											
府内学校図書館等 (支援セット・機関貸出)	21,534冊	22,993冊											
貸出冊数計	40,712冊	44,693冊											
担当課	社会教育課												



取組名	防災キャンプ推進事業									
取組実績	<p>○東日本大震災及び京都府での過去の自然災害の教訓を踏まえ、実践的な防災教育プログラムを体験することにより、防災教育及び地域の絆づくりを推進する「防災キャンプ」を実施</p> <p>▶参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1泊2日</td> <td>49名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>日帰り</td> <td>102名</td> <td>67名</td> </tr> </tbody> </table> <p>・救命救急体験、炊き出し体験、非常食体験、避難所体験、段ボールによるパーテーション作り、身近なものを使った食器作り、地震が起きるしくみの学習、災害ボランティアによる体験談の聴講、避難所運営ゲーム「HUG」の体験等</p>		28年度	29年度	1泊2日	49名	16名	日帰り	102名	67名
	28年度	29年度								
1泊2日	49名	16名								
日帰り	102名	67名								
担当課	社会教育課									

取組の成果と課題	
【成果】	<p>○マスターズ種目及び種目別交流種目数の拡大により、成年・中高年がスポーツに親しむ機会を提供できた。</p> <p>○府立図書館では、図書資料の充実や相互貸借で連携する大学の拡充、配送方法の改善を行い、府内のどこに住んでいても地域の図書館等で高度な図書館サービスを楽しむことができるように取り組んでいる。</p> <p>○府立図書館が、情報の拠点としての強みを活かして、府の府民参画部門、公的機関や企業、NPO等との連携を積極的に進めることにより、府民への多面的なサポートにつながっている。</p> <p>○防災キャンプ推進事業については、避難所生活の体験を通じて防災について考える機会を提供した。また、社会福祉協議会や災害ボランティアセンターの他、会場となった地元自治体や防災に取り組む地元企業、各種団体との協力体制を構築し、「防災」を軸とした地域のネットワークづくりを進めることができた。</p>
【課題】	<p>○マスターズ大会について、更なる周知・広報に努める必要がある。</p> <p>○府立図書館は、図書資料の更なる充実や連携する大学の拡充などにより、良質な図書を速やかに入手したいという府民の調査研究のニーズに応える必要がある。</p> <p>○府立図書館は、府民の知的活動の拠点として、集い学び合い議論する「知的な交流の場」におけるNPO等との連携事業を積み重ねていく必要がある。</p>

京都府教育行政点検評価会議での意見	
○生涯学習を進めていく上で、コーディネーターの役割は重要であり、人材の発掘や育成は課題として挙げられる。	
○地域住民の生涯学習への関心・意欲を高めるべく、かつ現代社会への対応を図るべく積極的に新規事業に取り組む必要がある。	
○地域住民のニーズや趣向が世代間、地域間によって差のある中、それぞれのジャンルで核となる事業については更なる充実と発展を期待したい。	

## 「京都府教育振興プラン」に基づく取組一覧

第3章の取組の中には、1から10までの重点目標のうち複数に関連する取組があります。

下表では、「取組名」と「関連する重点目標」を一覧に取りまとめ、取組実績を記載した重点目標に「★」、関連する項目に「●」を付けています。

例えば「子どものための京都式少人数教育」は重点目標1と7に関連しますが、重複を避けるため、取組実績は特に関連が深い重点目標1にのみ記載しています。

取組名	重点目標（★：取組実績記載、●：関連項目）									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
子どものための京都式少人数教育	★						●			
京都式専科教育推進事業	★	●					●			
京都式「学力向上学習システム」の構築【新規】 (効果の上がる学力対策事業)	★									
中1振り返り集中学習「ふりスタ」 (効果の上がる学力対策事業)	★									
中2学力アップ集中講座 (効果の上がる学力対策事業)	★									
学力向上システム開発校 (効果の上がる学力対策事業)	★			●			●			
小・中学校学力診断テストの実施 (効果の上がる学力対策事業)	★									
中学生読解力向上対策 (効果の上がる学力対策事業)	★									
理科教育推進事業【新規】	★						●			
大学の先生に学ぼう体験事業	★			●	●	●	●			
府立高校実力テストの実施 (確かな学力を身に付けるための支援事業)	★									
高校生学習チャレンジサポート事業 (夢に応えられる府立高校づくり事業)	★									
京都数学グランプリ、京都科学グランプリ (夢に応えられる府立高校づくり事業)	★			●	●					
道徳教育の推進		★								
こころを育む古典の日推進事業		★			●					
豊かな心を育てる読書活動の推進 (豊かな心を育てる教育推進事業)		★							●	
読書活動推進事業		★				●				●
高校生「京の文化力」推進事業		★			●		●		●	
高校生伝統文化事業		★			●					

取組名	重点目標 (★：取組実績記載、●：関連項目)									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
文化財対策事業		★								●
京の子ども体力・運動能力向上推進事業			★							
運動部活動外部指導者派遣事業			★				●		●	
薬物乱用ゼロ推進事業			★					●		
食育の推進			★							
夢に応えられる府立高校づくり事業	●			★	●					
人権教育の推進				★						
特別支援教育サポート拠点事業 (特別支援教育総合推進事業)				★			●			
特別支援教育充実事業				★			●			
府立高校特別支援教育支援員配置事業				★			●			
府立高校における特別支援教育の充実 (特別支援教育総合推進事業)				★		●				
地域等連携推進事業 (特別支援教育総合推進事業)				★			●			
羽ばたけ就労支援事業【新規】				★			●			
特別支援学校職業教育等充実事業				★			●			
学びと育ちを支える保幼小等連携推進事業【新規】 (効果の上がる学力対策事業)				★			●			
KY0発見 仕事・文化体験活動推進事業 (豊かな心を育てる教育推進事業)		●		★	●				●	
わたしの未来づくり支援事業 (明日の京都を担う高校生育成支援事業)				★						
京のアスリート育成・強化総合推進事業			●	★						
未来のメダリスト創生事業			●	★						
規律ある行いを実践する教育推進事業 (いじめ防止対策等推進事業)					★	●				
主権者としての高校生育成支援事業 (明日の京都を担う高校生育成支援事業)					★					
子どもと社会を結ぶまなびづくり協議会(結ネット KYOTO)		●			★					
環境教育の推進					★		●			
情報教育の推進	●				★		●			
英語教育人材育成強化事業 (京都次世代グローバル人材育成事業)					★		●			

取組名	重点目標 (★：取組実績記載、●：関連項目)									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
府立高校生グローバルチャレンジ事業 (京都次世代グローバル人材育成事業)					★		●			
府立高校生グローバル文化カフェ事業 (京都次世代グローバル人材育成事業)		●			★					
地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業						★			●	
学校安全教育の推進						★			●	
いじめ防止対策等推進事業				●		★		●		
少年非行対策				●		★				
生徒指導緊急指導教員の配置						★	●			
体罰事象への対応				●		★				
子どもの学習・生活支援プラットフォーム事業 (京都式「学力向上教育サポーター」事業)	●					★	●	●		
京都式「効果のある学校」推進事業 (京都式「学力向上教育サポーター」事業)	●					★	●		●	
小学生個別補充学習(ジュニア・わくわくスタ) (効果の上がる学力対策事業)	●					★				
地域未来塾開設支援事業 (子どものための地域連携事業)	●					★			●	
府立高校「セカンドラーニング教室」設置事業(確かな学力を身につけるための支援事業)	●					★				
高校生等修学支援事業						★				
府立学校施設整備事業				●		★				
今後の府立高校の在り方・高校制度改革				●			★			
教職員の働き方改革【新規】							★			
「教師力向上」地元パワー活用事業							★			
教職員の資質能力向上等							★			
集まれ未来の教員サポート事業							★			
京都府公立学校教員採用選考試験の改善							★			
開かれた学校づくりの推進							★		●	
家庭教育学習資料の作成								★		
家庭教育支援基盤形成事業(家庭教育支援事業)								★		
訪問型家庭教育支援事業【新規】								★		

取組名	重点目標 (★：取組実績記載、●：関連項目)									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
家庭教育カウンセラー巡回相談事業 (いじめ防止対策等推進事業)								★		
京のまなび教室推進事業 (子どものための地域連携事業)		●	●				●		★	●
地域で支える学校教育推進事業 (子どものための地域連携事業)		●		●	●		●		★	●
いじめ・非行防止キャンペーン						●		●	★	
土曜日を活用した教育	●						●		★	
京都府社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会										★
京都府版マスタース大会開催事業				●						★
府立図書館における府民の知的活動の支援	●	●					●			★
防災キャンプ推進事業						●				★

## 第4章 総評

### ▶ 京都府教育行政点検評価会議委員の総評

- 京都府の教育行政について、「京都府教育振興プラン」に基づき、質の高い学力や伝統文化・グローバル人材育成に向けた取組、いじめや暴力行為の防止対策の充実、特別支援教育の推進をはじめとした、これまでの取組の成果が見られており、総じて概ね良好と評価する。
- 新たな教育課題を見据えた新規事業をきめ細かく展開できている点についても評価する。
- 府教育委員会が目指す「京都の未来を創造する人づくりに向けた教育の推進」と「一人一人の学びを支える教育環境づくり」の2本柱は着実に進んでいる。人づくりによる京都とその未来の創生に大いに期待している。

### ▶ 京都府教育委員会の総評

- これからの複雑で予測困難な社会を前向きに生きていけるように、子どもたち一人一人が持つ多様な可能性を自信に繋げられるような教育を推進していく必要がある。
- 新学習指導要領では、小学校中学年で「外国語活動」、高学年で「外国語科」が導入されるが、子どもたちの興味・関心をうまく引き出す担任の表現力や、歌やゲームなどを用いて集中力を継続させる工夫など、小学校の先生らしい楽しい授業に期待している。
- 特色ある学校づくりには、地域住民の方々が深く関わってくださり、期待と温かい支援を寄せていただいている。今後も生徒が地域の人々の温もりを感じながら、個性豊かな学びをはぐくんでいけるような取組を進めていきたい。
- 特別支援学校では、学習面や生活面で、一人一人に合ったきめ細かな支援や個々の能力に応じた指導が大切である。今後も、現在取り組まれている地域に密着した活動や近隣の企業と連携した取組を充実させながら、子どもたちの可能性を最大限に引き出し、個々の自立に向けた教育を積極的に進めていく必要がある。
- 海外に行くことで、自分が住む京都の歴史や文化、伝統について深く学べたり、全く違う環境に自分の身を置き、異文化に出会うことで、これまで気が付かなかった新しい自分を発見することができる。今後も引き続き、留学のチャンスを広げていきたい。

また、英語が苦手な生徒にも積極的に海外留学にチャレンジできるような環境を充実させていくことも大切である。

○いじめの未然防止、早期発見、早期解消には、スクールカウンセラー等の専門的な立場にある人の協力は不可欠であり、引き続き配置の拡充に努めていただきたい。また、大人のひきこもりが社会問題となる中、不登校の子どもが将来、ひきこもりにならず、社会的に自立できるよう学校教育の段階からの適切な支援に加え、長期的な視点に立ち、学校卒業後の支援に繋ぐ仕組みづくりを関係機関と連携しながら進めていただきたい。

○小学校の外国語教育や道徳の教科化など、先生の授業づくり、学級づくりに拍車をかける波が、すぐそばまで迫ってきている。教員の多忙化を解消するという意味でも、担任の負担を補う人的支援だけでなく、教員の資質能力の向上や専門性を持った人材の活用、教員志望の大学生の育成等についても更に充実させていくことが重要である。

○教育は、学校や地域関係者だけでなく、家庭・地域が一体となって進めていくことで、未来を切り開く子どもたちを育むことに繋がる。今後も、より一層連携を深めながら、地域総がかりで子どもの未来のための教育に取り組んでいく必要がある。

